

# 有機水銀は含まない

## 熊大入鹿 山教授 水俣港の下べ調査

水俣市の依頼で水俣港湾の海底の下べの調査研究をつづけていた熊大医学部の入鹿山日教授（衛生学）は「ドベには水俣病の原因と

みられる有機水銀は含まれていない。水俣港のしゅんせつは可能だ」とこのほど水俣市長あてて回答した。

この調査は水俣港内のしゅんせつを計画している市が、港内のドベをかき回した場合、これまで沈んでいた有機水銀が海水内に混入し水俣病再発の危険があるのではないかと調査を依頼したものである。

同教授は回答書のなかで水俣病の原因となつてゐる有機水銀は三十五年新日窒水俣工場廃水処理施設が完成して以来、工場の排水溝と港内の泥土のなかに検出されないといふこと問題を起さな

いたためにも早急に徹底的なしゅんせつをしたほうがいいとのべている。

水俣港（百間港）は昨年二百十五坪の新岸壁が完成、あとは港内のしゅんせつと野積み場などが完成すれば一万吨級の大型船も接岸できる。ところが野積み場の埋め立てにはしゅんせつ土をあてることになつてゐるため、ドベをかき回せば水俣病が再発する恐れがあるとして漁民から反対があり着工がのびのびとなつてゐた。

このため早急に港の改修が実現できるよう商議所などが中心となつてゐる七月十三日には水俣港改修促進協議会が結成され、市民運動としての推進を決めており、同教授の結論で改修促進に拍車がかけられるものとみられる。

では第二段階の方法を考えなければならぬ」と語っており、基準解雇が実施される公算が大きくなつてきた。

退職者の再就職については会社側の発表によると第一次応募者百八人のうちすでに九州開発十四人、デルタプラスチック七人、日勤油化五人など三十三人。第二次応募者のうち二人が南九州開発にそれぞれ決定している。